

令和元年度 発達障がい支援者研修会

日時:2019年7月27日(土) 追加2022年3月20日

場所:にぎたつ会館

# 学習障がい、発達性読 み書き障害の学習支援 のあり方(追加資料)

2022.3.11

愛媛大学  
長尾秀夫

# 追加資料の目次

- ・学習の困難とは？
- ・DDの小児科診療の実態
- ・DDの早期発見の具体案
- ・DDの診断・支援のフローチャート
- ・生活の中での学習
  1. 絵日記を書く。
  2. レシピを書いて、料理を作る。
  3. 買い物物の会計(こづかい帳)
- ・学習習熟度テストを生かした学習法
- ・英語の学習法
- ・その他

# 学習に困難がある子ども？

特別支援教育とは、障害のある幼児児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行うものです。(平成19:2007年4月 学校教育法)

## 障害:

視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由(運動障害)、病弱・身体虚弱。

言語障害、自閉症・情緒障害、学習障害、注意欠陥多動性障害。

# 学習に困難がある子ども？

子どもの学習困難は、

子どもの側・・・障害等

環境の側・・・家庭(家族)、学校(教員等)等

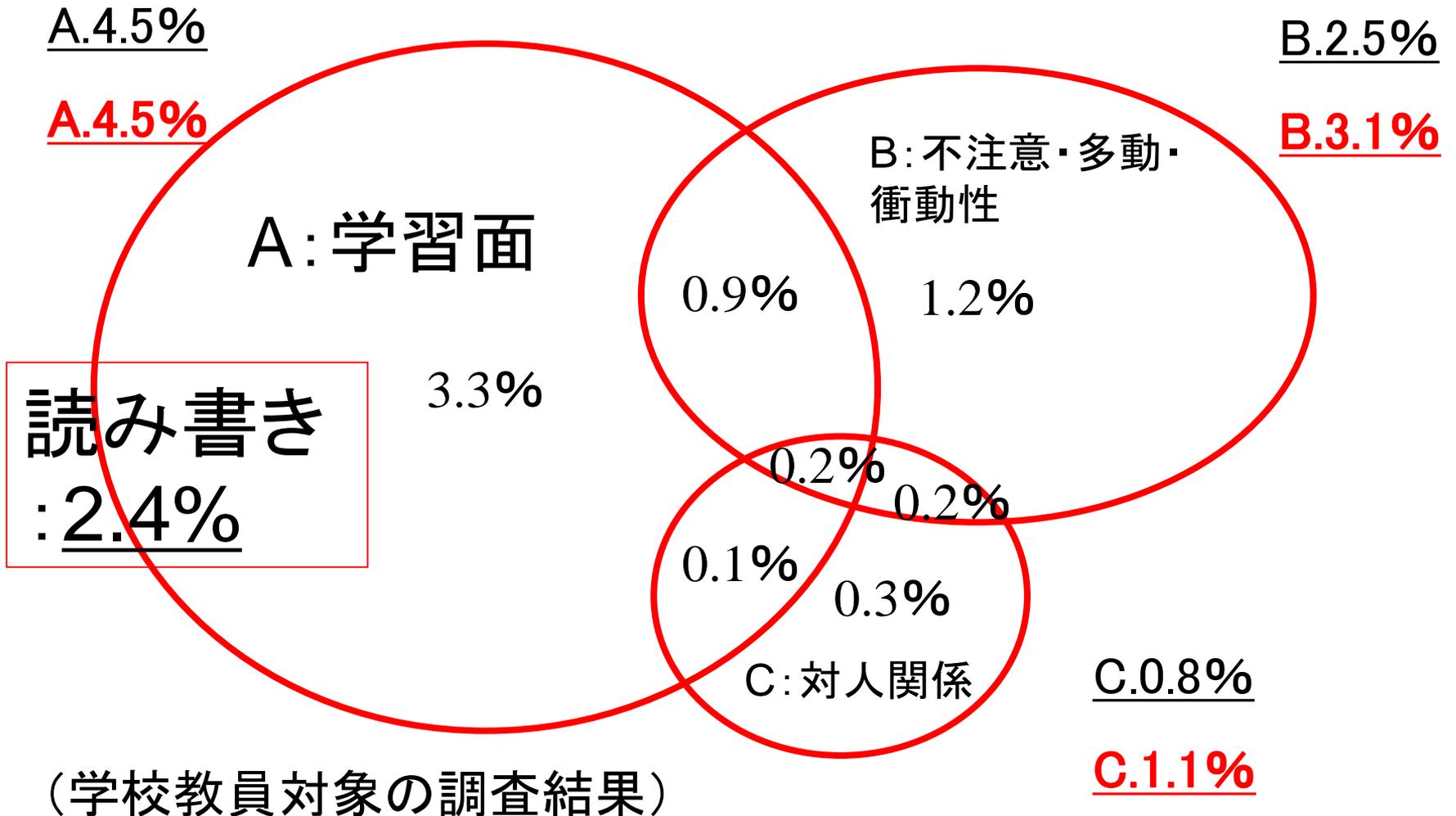
これら両方の側面から見て、理解(診断)する。

◎実践における子ども理解とは？

理解でき、改善可能な部分から目標を設定して支援し、その成果の過程で、さらに理解を深め、発展的目標ができる。この理解と支援が一体化したものがPDCAによる実践である。

# 文部科学省の調査：LDとは？

(黒字H14年、赤字:H24年)



# 発達性読み書き障害 (DD) とは？

発達性読み書き障害は、**学習障害の一つ**。

DSM-IV、ICD-10の読字障害と書字障害を含む。

読めないのではなく、読むのに時間がかかる

定義は、**読み書き**の学習レベルが年齢や知的発達、教育の程度から期待されるレベルより、十分に低い状態をいう。

頻度は、アルファベット圏では、学童の5～7%。

日本語圏では、学童の1～2%。(細川ら、2009)。文科省の教員に対する調査(2012)では学習の困難**4.5%**、読み書きの困難**2.4%**。

# 対象児

受診した子ども **89人** (男71人、女18人)

年齢: 5歳5か月～17歳7か月

**主訴:** (重複あり)

読み書きの困難・学習困難	89名
＋読める文字が書けない	2名
＋漢字が書けない・覚えられない	6名
＋不器用	6名
＋算数ができない	5名
＋言葉の遅れ	1名

# 対象児

DDと診断した子ども **51人** (男42人、女9人)

年齢: 6歳2か月～17歳7か月

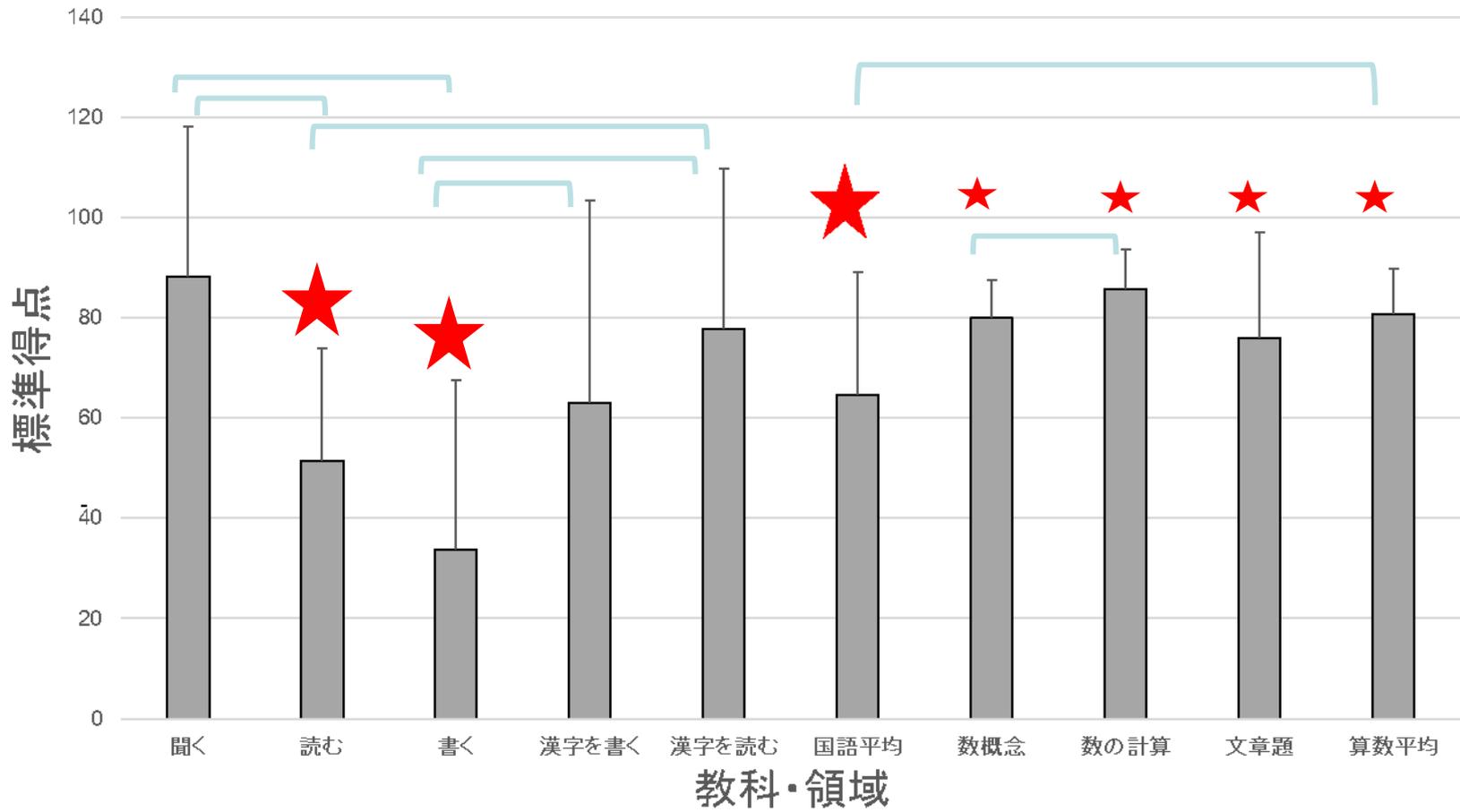
**最終診断:** (重複あり)

DDのみ	21名
<b>+境界域の発達 (IQ:70～84)</b>	<b>15名</b>
+注意欠如・多動性障害 (不注意)	8名
+自閉症スペクトラム障害	6名
+不登校	2名
+その他 (異文化、夜尿、てんかん)	計3名

★ 定型児との差

# DD児の学習習熟度テストの全学年平均標準得点 (38名)

有意差あり



# DDがある5年生一例の学習習熟度テストの標準得点

	1年	2年	3年	4年
聞く	103.4	110.6	122.7	 72.5
読む	108.5	 83.8	62.6	0
書く	118.8	128.4	 0	0
漢字を書く	120.4	88.6	126.6	 30.4
漢字を読む	125.8	116.1	124.5	101.5
国語平均	115.3	107.7	89.1	44.7
数概念	78.9	88.7	103.5	 12.5
数の計算	93.1	94.5	99	 54.4
文章題	104.2	108.6	82.8	 0
算数平均	92.2	97.3	98.3	23.4

# DDがある子どもの受診例の特徴

	病院を受診する	病院を受診しない
本人	<p>①生活上の困難がある</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・DD症状が<b>顕著</b>である</li><li>・知的発達<b>境界域～軽度遅れ</b></li><li>・<b>合併症</b>がある</li></ul>	<p>①生活上の困難がない</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・DD症状が<b>軽い</b></li><li>・知的、その他の<b>得意分野</b>でカバーしている</li><li>・DD以外の<b>症状がない</b></li></ul>
環境 (親、教員、その他)	<p>①環境の課題</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・親や支援者が<b>困</b>っている</li><li>・周囲の友達などが<b>困</b>っている</li></ul>	<p>①環境の問題</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・親や支援者が<b>気づかない</b></li><li>・本人の<b>頑張り</b>が足りないと考える</li><li>・周囲の人の<b>過剰支援</b>で困らない</li></ul>

# 幼稚園のDD児の困難

- 色や形の**名称**、**友達の名前**を覚えられない。  
思い出せない。
- 単語の**発音**を間違える
- 童謡の**歌詞**を覚えず、**童謡を歌うのを嫌う**
- **自分の名前に使われる文字**を認識できない
- 絵本を読まない**
- 絵本を読んでくれといい、**暗記**してしまう
- しりとり遊びができない**
- 文字を教えようとする**と逃げ出す**

# 小学1, 2年のDD児の困難

話す:

- 似たような語と間違えて言う。
- 名前が出てこない。

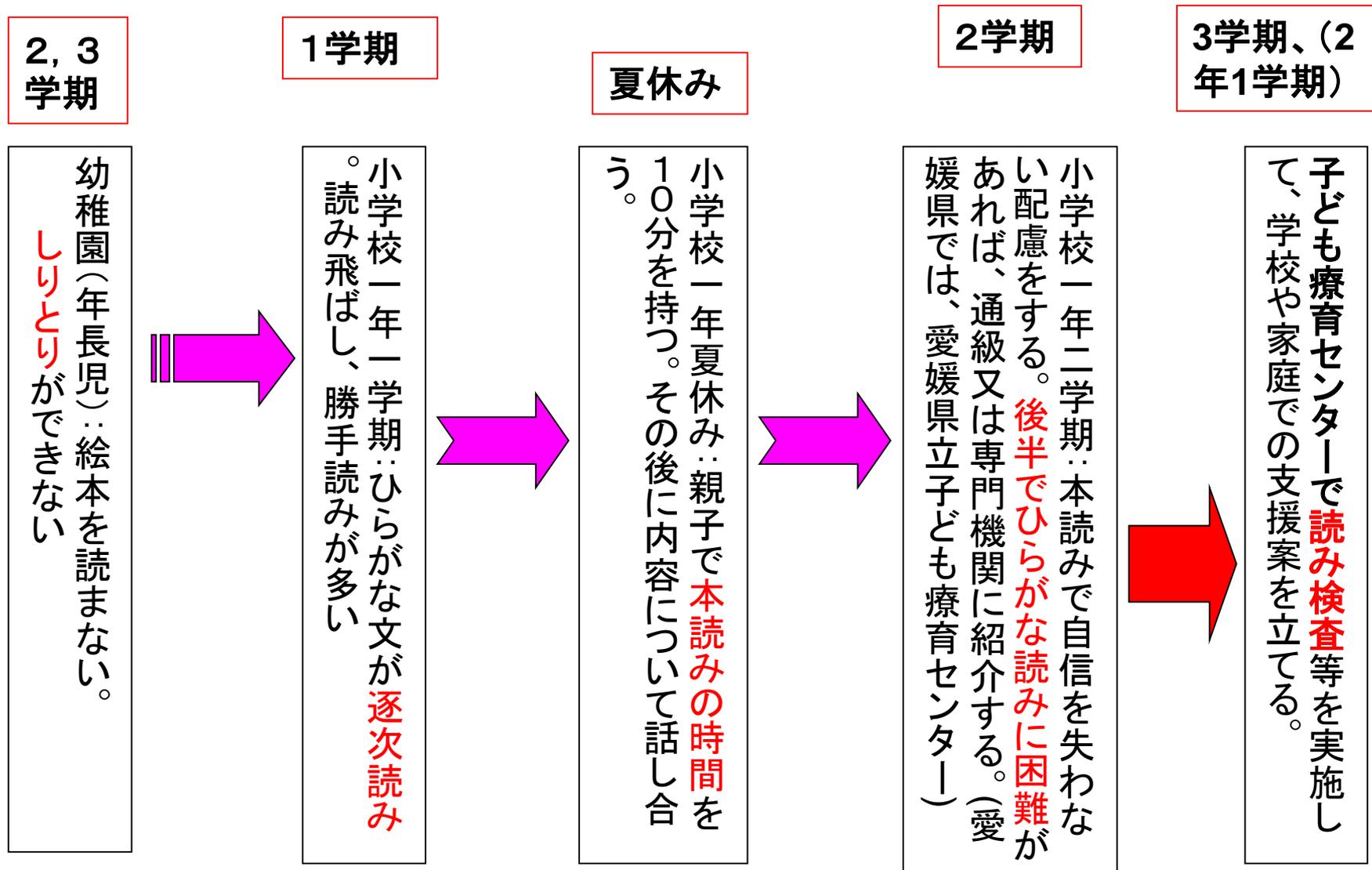
読む:

- 一文字ずつのたどり読み(逐字読み)が続き、内容が理解できない。
- 飛ばし読みや勝手読みが多い。
- 拗音・促音が読めない。
- 文字と音を関連づけることができない。

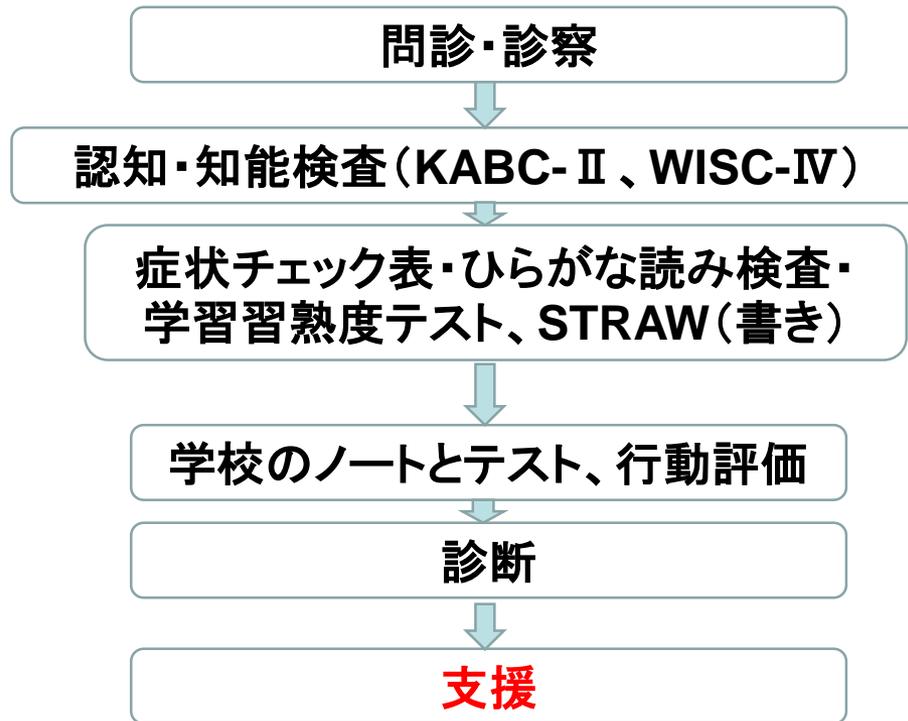
書く:

- ・読むだけでなく書くことは更に大変で、連絡帳を書くことができない。

# 発達性読み書き障害の早期発見



# 発達性読み書き障害 (DD) の診断・支援の現状



## 全人的支援:

- ・子どもの良さを伸ばす。(トッパアップ)
- ・心身の健康、コミュニケーション、行動・社会性、社会参加、学習、身辺自立を促す。

## トッパダウン:

将来の習熟到達段階を予測して、生きる力につながる学習内容を精選する。生活を題材に学習する。

## ボトムアップ:

習熟段階に合った達成可能な学習内容・量を精選する。一斉授業では今している学習とのギャップをヒントカード、助言等で補い、理解のために個別指導等を行う。  
DDに特化した文字の音声化、語彙力指導を強化する。

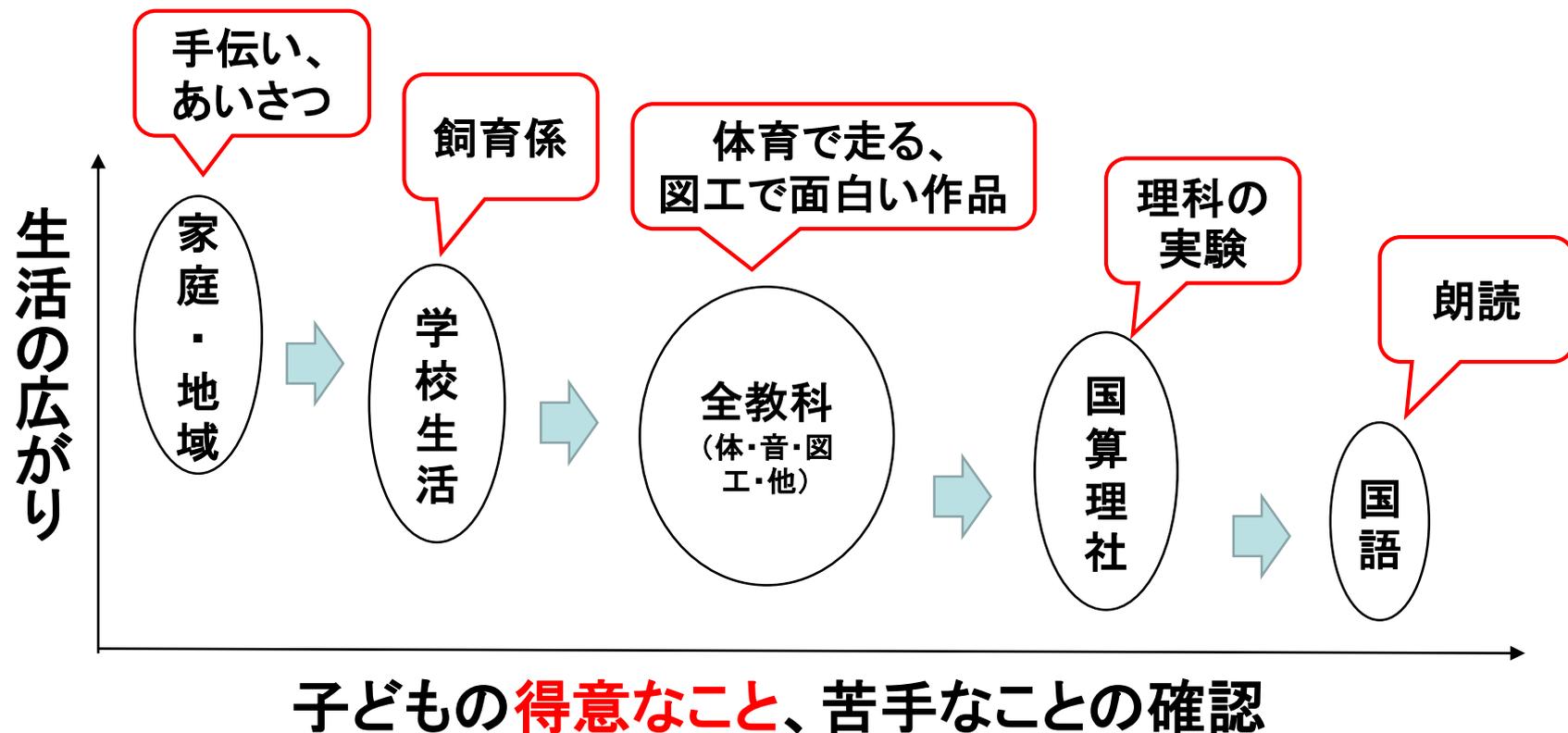
# 全人的支援：児童生徒の良さを伸ばす (トツプアツプを目指す)

- ・健康では生活のリズム、心の安定
- ・コミュニケーションでは、自分からの発信、意志を伝える。
- ・行動・社会性では、対人関係を調整、集団参加を促す。
- ・学習では、初めに得意分野(教科)を伸ばし、苦手分野は必要最小限に精選する。
- ・身辺自立では、手伝いを通して将来の生活に役立つ自立を目指す。

# 全人的支援：児童生徒の良さを伸ばす

今できること？（能力）  
今していること？（実行状況）

具体例：





# 料理(ホットケーキ)を作る:レシピ

材料:ホットケーキミックス	1袋(150g)
卵(Mサイズ)	1個
牛乳	100ml

## 作り方:

- ①ボールに卵と牛乳を入れて混ぜる
- ②ミックスを加えて軽く混ぜる
- ③フライパンに入れて弱火で焼く(約3分)
- ④裏返して焼く(約2分)・・・出来上がり!

# 買い物に行って、収支を書く

もらったおかね	1000 えん
---------	---------

かったもの	1このねだん (えん)	かったかず (こ)	ごうけい (えん)
ホットケーキミックス	1ふくろ(4こいり) 300	1	300
たまご(M)	1パック(5こいり) 100	1	100
ぎゅうにゅう	1こ(500ml) 200	1	200
ごうけい	—	—	600

のこったおかね	400 えん
---------	--------

# 得意な算数の習熟度(例)

小学5年生

トップアップ

算数修了問題の記入用紙  
名:

年 組 氏

(正答は○、解答はNR、補答は記入)

算数 単元	1年		2年		3年		4年		5年		6年	
	問題	回答	問題	回答	問題	回答	問題	回答	問題	回答	問題	回答
数 の 概 念	1-1①	○	1-1①	○	1-5	○	1-4	○	1-5全道		1-5全道	
	1-1②	○	1-1②	○	2-1①	○	1-5①	○			1-5①	
	1-2①	○	1-2①	○	2-1②	○	1-5②	○			1-5②	
	1-2②	○	1-2②	○	2-2	○					1-5③	
	1-3①	○	1-3①	○	2-3①	○						
	1-3②	○	1-3②	○	2-3②	○						
	1-3③	○	1-4①	○	2-5	○						
	1-4①	○	1-4②	○								
	1-4②	○	1-5①	○								
	1-4③	○	1-5②	○								
	1-5①	○	1-6	○								
	1-5②	○										
	1-6	○										
	2-2①	○										
	2-2②	○										
小 数 ・ 分 数							1-6①	○	1-7①		1-3①	
							1-6②	○	1-7②		1-3②	
							1-7①	○	1-7③			
							1-7②	○	1-7④			
							2-1①	○	1-7⑤			
							2-1②	○	2-1①			
							2-2	○	2-1②			
									2-1③			
									2-2③			
									2-2④			
数 の 計 算	2-1①	○	1-7①	○	1-1①	○	2-3①	○	1-4①		1-1①	
	2-1②	○	1-7②	○	1-1②	○	2-3②	○	2-3①		1-1②	
	2-1③	○	1-7③	○	1-1③	○	2-4①	○	2-3②			
	2-1④	○	1-7④	○	1-1④	○	2-4②	○				
	2-1⑤	○			2-4①	○						
	2-1⑥	○			2-4②	○						
	2-2①	○										
	2-2②	○										
	2-2③	○										
	2-2④	○										
	2-2⑤	○										
	2-2⑥	○										
	2-2⑦	○										
	2-2⑧	○										
	2-2⑨	○										
2-2⑩	○											
算 法 ・ 除 法			(2-3)	○	1-2①	○	1-2①	○	1-2①		1-2①	
			2-2①	○	1-2②	○	1-2②	○	1-2②		1-2②	
			2-2②	○	1-2③	○	1-2③	○	1-2③		1-2③	
					1-3①	○	1-2④	○	1-2④		1-2④	
					1-3②	○	1-2⑤	○	1-2⑤		1-2⑤	
					1-4①	○	1-3①	○	1-3①			
					1-4②	○	1-3②	○	1-3②			
					1-6	○	1-3③	○	1-3③			
					1-7	○	1-3④	○	1-3④			
					2-4②	○	2-2①	○	2-2②			
				2-4③	○							
計 算 活 用			(2-1)	○	1-1①	○	1-1①	○	1-1①		1-1①	
					1-1②	○	1-1②	○	1-1②		1-1②	
数 量 関 係			(2-4①)	○	(2-6①)	○			(2-4①)		(1-4①)	
			(2-4②)	○	(2-6②)	○			(2-4①)		(1-4②)	
									(2-4②)		(2-1①)	
文 章 題	2-3①	○	1-6	○	1-3①	○	1-5①	○	2-4①		1-4①	
	2-3②	○	2-3	○	1-7	○	1-3②	○	1-5②		1-4②	
	2-4①	○	2-6①	○	2-5①	○	2-4①	○	2-4①		2-1①	
	2-4②	○	2-6②	○	2-5②	○	2-4②	○	2-4②		2-1②	
	2-4③	○			2-5③	○	2-4③	○	2-4③		2-2①	

(注) 括弧は補答と算数

・計算を伸ばし、より高度な質と量に発展。

トップダウン

・文章題は将来の生活の内容。  
(例)生活に必要な料理、お金の計算、小遣い帳、計算機の使い方等

ボトムアップ

・文章題は1~2年の内容。  
(例)スゴロク、パズルです。  
文章・単語・数字を興味や理解度に合わせて修正する。

# 苦手な国語の習熟度(例)

国語修了問題の記入用紙

氏名：

年 組

小学5年生

トツプアツプ

	1年		2年		3年		4年		5年		6年	
	問題	答										
一 聞 く	1①	○	1	○	1	○	1	○	1	○	1	
	1②	○	2①	○	2①	○	2	○	2	○	2	
	2	○	2②	○	2②	○			3①	○	3	
	3	○							3②	○		
二 読 む	1	○	1	○	1①	○	1	○	1	○	1①	
	2	○	2	○	1②	○	2①	○	2	○	1②	
	3	○	3	○	1③	○	2②	○	3	○	2	
					2	○	2③	○	4	○	3	
					3	○	3	○	5	○	4	
三 書 く	1①	○	1	○	1	○	1	○	1	○	1	
	1②	○							2	○		
四 言 語 事 項	書く 1	○	書く 1									
	書く 2	○	書く 2									
	書く 3	○	書く 3									
	書く 4	○	読む 1	○	書く 4	○	書く 4	○	書く 4	○	書く 4	
	書く 5	○	読む 2	○	読む 1	○	書く 5	○	書く 5	○	読む 1	
	書く 6	○	読む 3	○	読む 2	○	読む 1	○	読む 1	○	読む 2	
	読む 1	○			読む 3	○	読む 2	○	読む 2	○	読む 3	
	読む 2	○			読む 4	○	読む 3	○	読む 3	○	読む 4	
	読む 3	○							読む 4	○		
	読む 4	○										
読む 5	○											

・聞き取りができており、集団の中で活用する。(例)本を読み聞かせ、質問に口頭で答える、自分の意見を発表する。書くのは代筆、録音、パソコン等

トツプダウン

・読み書きは興味ある、絵や図が多い本。(例)漢字は会話や作文で使っているものから、ローマ字・英語も生活の中で見るものから。

ボトムアツプ

・読み書きは1~2年生の内容。(例)興味関心のある本を音読する。平仮名で感想文を5W1Hの枠で書く。絵日記を書く。  
 ・DDでは文字の音声化、語彙力の強化！

# DD児者指導・支援の要点

(安藤、Jpn.J.Learn.Disabilit. 25:431、2016)を部分修正

NICHDの報告(NRP2000)によると、DDに対する科学的根拠に基づく効果的な指導に不可欠な5つの要素:

- ①音素・音節
- ②フォニックス
- ③語彙発達
- ④流暢性(音読技術を含む)
- ⑤読解方略

これらを、明示的、直接的、体系的に指導する。

# ①音素・音節

- ・**アルファベット**の大文字、小文字の双方の読み方(**音素:音**の最小単位)と形を知ることが読みと綴りの指導に必要。
- ・**音節**は、一定の時間的長さをもつ音の分節。**1の母音**をもつ**言語**の単位、1音節。音節は**話し言葉と書き言葉をつなげる役目**がある。
- ・音節認識は、就学前幼児の**運動**(階段上り、ケンケンパーなど)しながら**音節(モーラ・拍)**を**唱える、しりとり、逆さま言葉、ためき言葉**などの言葉遊びで育つ。

# 記号と音との対応

- ・DDの子は友達や先生の名前が思い出せないことがある。
  - ・読む場合は文字記号から音を想起(デコーディング:音声化)できない。
- 音節認識を刺激するにはしりとり遊びが良い。
- 文字学習で絵付の五十音表は効果がある
- 平仮名が読めない時には、子どもに合わせて作成したフラッシュカードで練習する。  
～毎回、目に見える成果を確認する。

## ②フォニックス

フォニックスとは、英語44字の綴り字と発音との規則性をいう。これを学ぶと単語を正確に認識し、見慣れない単語も読む力を育てる。

文字の音声化 (例) a : b a g

綴り字・アルファベット読み エイ : ビー エイ ジー

発音・フォニックス読み あ : ぶ あ ぐ(ぶあぐ)

・日本語では、特殊音節の習得に困難が伴うために、特殊音節の規則性を早期介入することが行われている。

例 : 促音～ら**っ**ぱ、長音～が**っ**こう、撥音～ほ**ん** : 1拍

拗音～きゃく、きゅうり、きょう : 前と合わせて1拍

### ③語彙発達

語彙発達として、単語の意味を理解することを指導する。

- ・語彙指導で大切にすべきことは、
  - 子どもの興味関心や問題意識から出発すること、
  - 実体験や日常生活の中で子どもが選択したトピックスをテーマとすること、
  - 精選された語彙リストを意図的・計画的に用意すること、
  - 動機付けを高めながら子どもの主体的な活動を繰り返す。

# 語彙を増やす

- ・子どもの日常生活の中で出会った単語を覚え、一般的知識を習得する。
- ・語彙の指導は子どもが多くの例を知り、たくさん話し合う。また、単語の説明とともに絵や図で示す。
- ・子どもの語彙を増やすには、子どもの興味(スポーツ、ペット、車、宇宙、など)を機動力とする。
- ・子どもの“経験に伴って出てきた言葉に間違っ  
た答えなどない”という姿勢で、一緒に話し合  
う。

## ④ 流暢性

流暢性とは、文章を正確に素早く読み、単語を認識し、意味を読み取る能力である。

指導法は、指導者がお手本を示し、先生や仲間からフィードバックと励ましを受けながら子どもは音読する。

・具体的指導の手順：

①指導者が読み(範読)、子どもは話し言葉として理解し、②それを手がかりに、子どもは既知知識と結び付けて音読する、③うまく読めているかモニタリング(自分で、ICレコーダーで振り返る)をし、成功経験を持つ。

# 流暢に読むための方法

- 繰り返し読み(repeated reading)
- フィードバック付反復音読指導法(guided repeated oral reading: GROR)
  - ・・・聞いて、修正フィードバックする
- ペア読み(paired reading)
  - ・・・2人1組になって読む
- シェア読み(shared reading)
  - ・・・文章の一部を読む
- 呼応読み(echo reading)
  - ・・・教師の手本どおり読む

## ⑤ 読解方略

読解方略とは、**読んだこと**や**ものの意味**を理解するための方略である。

これにはメタ認知的方略がある。メタ認知とは、考えることを考えることで、自分の**読みのプロセス**を意識している状態。

- ・具体的には、子どもと**やり取り**して、**要旨をまとめる**
- ① **ストリート・マップ** (小分けして**図解**)、**グラフィック・オーガナイザー** (図や表などで**視覚的に**提示)、**意味論的オーガナイザー** (**意味のつながり**や**関係を視覚的に**提示)などで理解を助ける。
- ・仲間と**話し合い**、**書く機会**のある協働学習で**学習経験**を増やし、**記憶**を定着する。

# 読解力を育てる3つのレッスン

「読み聞かせ」における3つの方法：

1. 本を開く**前**にすること
  - ・本の中身(挿絵など)を**ざっと見る**。
  - ・**興味**と結びつけ、**予備知識**を活性化させる。
2. 本を**読みながら**すること
  - ・この後**どうなる**と思う？
  - ・区切り、あらすじを**要約**させる。
3. 本を読んだ**後**ですること
  - ・本の**あらすじ**を**説明**させる。
  - ・あらすじを**図**に**描いて**示す
  - ・それを**どう思うか**？

# 読みの負担の軽減

- 事前に教科書を読んであげて耳から聞いて理解させておく。
- わからない語彙を教えておく。
- 漢字に振り仮名を振る。
- 単語や文節の区切りに斜線を入れる。
- 手作りの録音テープを用意する。
- 電子辞書、携帯電話の利用を許可する。
- 別室で読み上げ試験を行う。
- 2行程程度の穴を開けた下敷きを利用する。
- 読みと関係ない活動、絵や工作、手芸、スポーツなどでストレスを発散しておく。

# 日本語のDD児者指導・支援の要点

本人が学習面で習得すべきこと:

## 1. 文字の音声化

~~~~音読する!

## 2. 語彙力をつける。文章読解へ進める。

~~~~身近な、よく聞き・話す語彙を学ぶ!

環境で整えるべきこと(合理的配慮): 教材+

1. 読めない漢字に振り仮名(ルビ)をつける。

2. 時間延長をする。

3. 問題を代読する。

4. 拡大教科書、プリントを使う。

5. パソコンによる入力・出力を使う。

# 音読練習用の拗音フラッシュカード(例)

(表)

きや

(裏)

きやべつ

(絵、写真)

# ひらがな拗音の一覧表

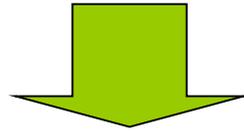
|    |    |    |    |    |    |    |
|----|----|----|----|----|----|----|
| りや | みや | ひや | にや | ちや | しや | きや |
| りゆ | みゆ | ひゆ | にゆ | ちゆ | しゆ | きゆ |
| りよ | みよ | ひよ | によ | ちよ | しよ | きよ |
|    | ぴや | びや |    |    | じや | ぎや |
|    | ぴゆ | びゆ |    |    | じゆ | ぎゆ |
|    | ぴよ | びよ |    |    | じよ | ぎよ |

# 絵日記指導の成果（目標の達成）

5月7日（指導前）

ぼくは いえに いぱい かぶとのようちようが います。  
いつのきのきうおいています。もうちよと はやく せいちよ  
うしたら いいなー。

（正：いっぱい、ようちちゅう、いつも、ぼう、もうちよつと）



10月4日（指導5か月後）

目標：N児設定→漢字6個、「っ」、「ん」、「°」

**ぼ**くは、**土**日**曜**日にお**母**さんと おはかまいりに いきま  
した。 **そ**う**じ**をしました。

ほうき**で** は**っ**ぱを はきました。お**花**が きれいに なりま  
した。

# 語彙力をつける

それぞれが**使っている言葉**から始め、**興味関心**がある分野で言葉を増やす。

1. 話した言葉を書いてみよう。
2. **似た言葉** (類義語) を集めよう。  
～名前、気持ち、動き、様子、その他
3. **反対の意味の言葉** (対義語) を探そう。
4. 漢字の**熟語**を作ろう。(類義語、対義語)
5. 三字熟語、四字熟語を探そう。
6. ことわざ、慣用句、故事成語に挑戦しよう。

# 文章の読解

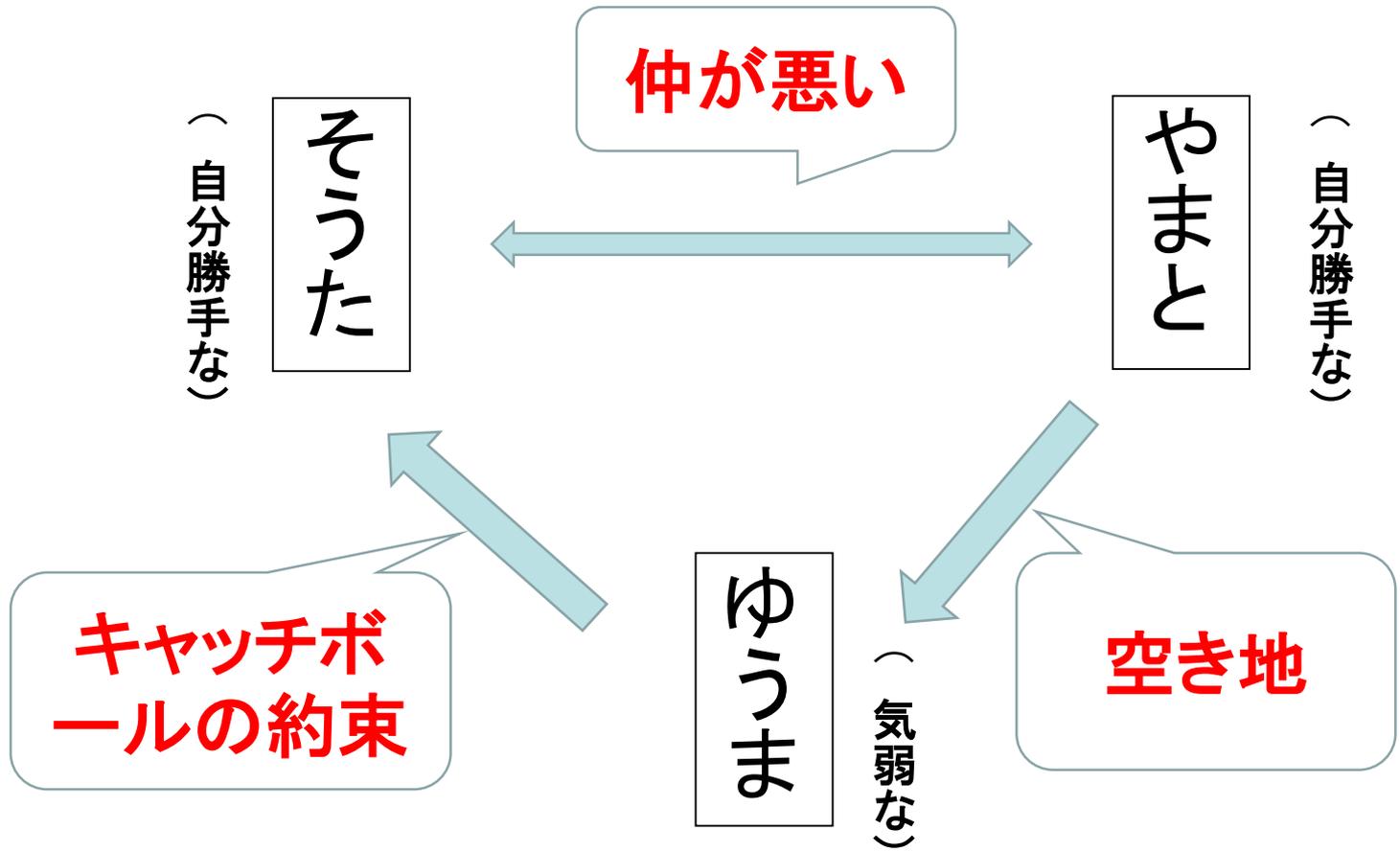
- ・子どもに合った**短い、わかりやすい**文章から始める。(ひらがな、分かち書きなども考慮)
- ・子どもが**好きな本**、絵本などを活用する。
- ・**音読**から入り、子どものペースで読ませ、はじめは修正しない。わからない文字があれば読み方を教えることも事前に伝えておく。音読後によく読めた部分を具体的に**褒める**。
- ・子どもの**指導に合った文章**が選べたら、その全体を**音読**させ、内容を**話し合った**あと、**一文**ずつ内容を確認する。

# 国語の読解力を育てる支援

理解がむつかしい場合、下記を子どもがする。

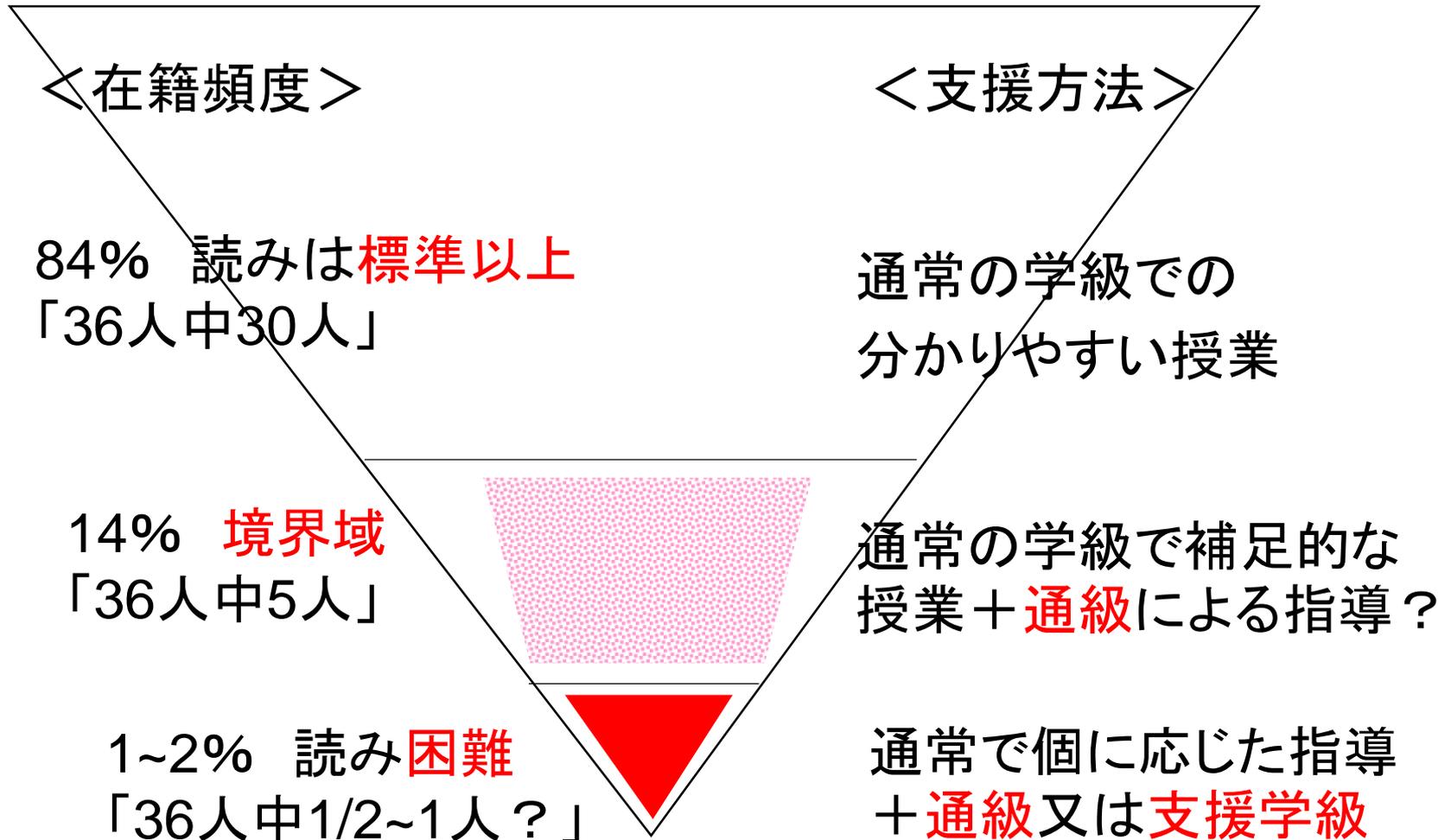
出来なければ支援者がして手本を示す。手本のヒントカードを準備しておく。

1. 問題を正しく音読する。
2. 大切な言葉、分かりにくい言葉、表現に印をつける。(問題文に書き込む、汚す)  
自分で調べる。わからなければ、自分から質問する。
3. 場面を理解する。  
主語－述語を探す。全体を「いつ、どこで、だれが、どうした」の5W1H構成でワークシートに書く。難しければ、段落毎に。それで難しい場合は文毎に。ワークシートに書けない時は支援者が一つずつ質問し、回答後に書く。
4. 文章どおりにロールプレイ(やりとり)をする。
5. 登場人物の気持ちを話し合って、考える。  
心情語に傍線を引く。
6. 大切な言葉を書き出して図示する。  
繰り返し出てくる言葉に注意する。
7. 答を書く。

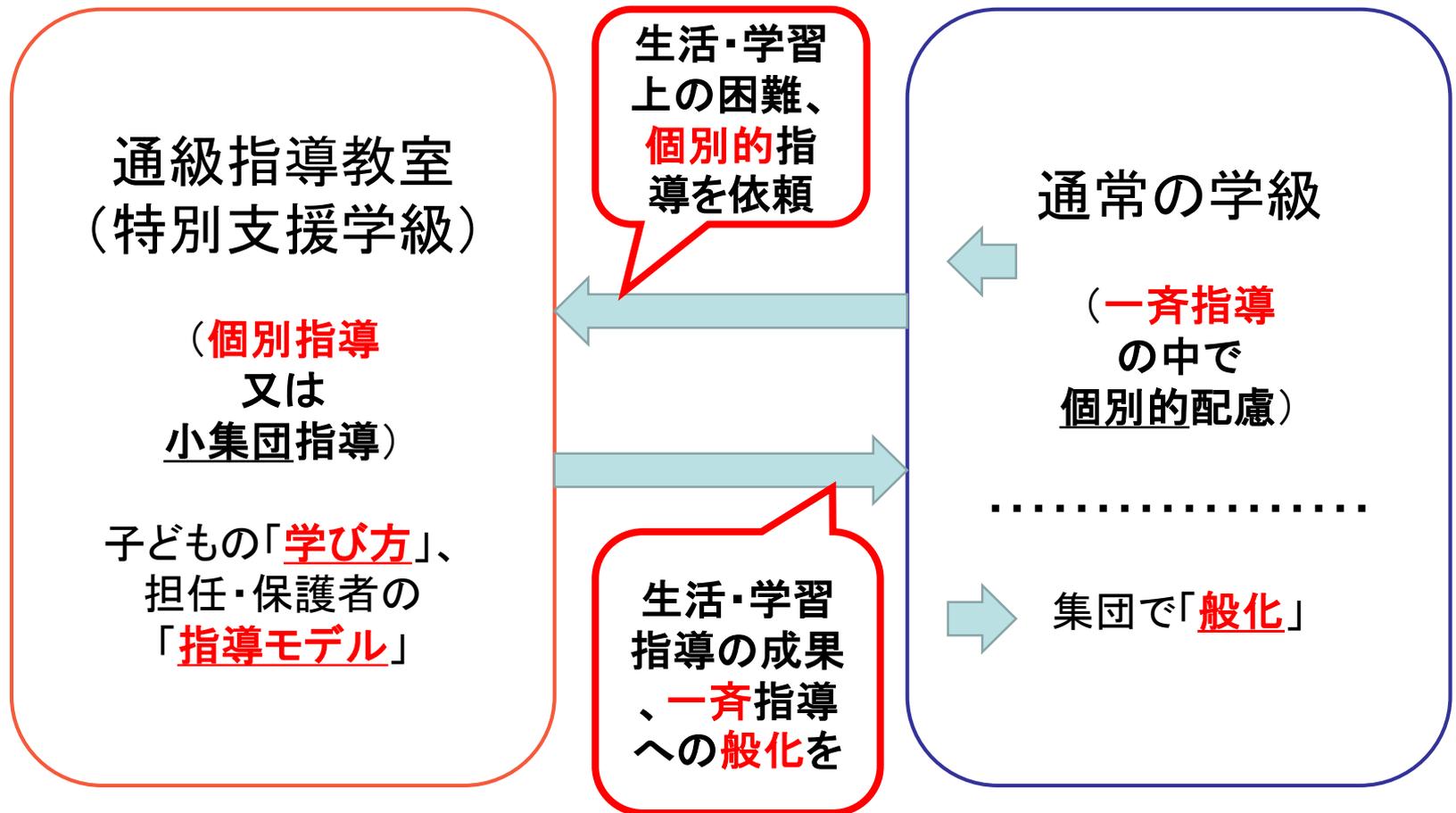


話の見える化(作図)

# 読み能力の分布



# 通常の学級と通級指導教室・特別支援学級の連携



# 発達性読み書き障害に対する 特別な指導プログラム(通級)～45分の授業(案)

1. **前回**の読みの復習(3分)

今週の楽しかったことのお話し(3分)

2. **得意な教科**の発展(10分)

算数、理科等の授業の復習、発展

**テスト**で確認(3問)～＋評価(3分)

3. **国語等**の読み書きをする(15分)

国語等(お話の本)の授業の復習、発展

**テスト**で確認(3問)～＋評価(3分)

休憩:2分

4. 授業(2・3)の振り返り(2分)

休憩:2分

5. 連絡帳(担任、保護者に連絡) (2分)

学習したテストやノートを**持ち帰らせる**。

# 特別な指導プログラムの内容(例)

## 2. 得意な教科の発展

算数、理科等の授業の復習、発展

(例) **トップアップ**: <よりよくできる目標>

現状を踏まえて、「良さ」をさらに伸ばす目標、  
子どもの興味関心の世界で自主的な課題を学ぶ。

## 3. 国語等の読み書きをする

国語等(お話の本)の授業の復習、発展

(例) **トップダウン**: 将来の「生活」に活用される目標

**ボトムアップ**: <次にできそうな目標> 現状を踏まえて、「困難」の中で次にできそうな精選した目標  
～習熟度テストを参考に子どもが8割以上できる課題から始める。子どもが**興味関心**あり、今後**活用**する内容で、**達成可能な内容と数量**を調整する。

# 通級担当者の基本姿勢

\*「今、自分は何を教えようとしているか」常に自らに問いかける。

～目的に合わせて指導を調整する。

\* 学校教育の「不易」を実践する。

～児童生徒のよさや可能性を育て、自己肯定感を育てる。

少人数や個別で子どもに合った学び方のモデルを創り、通常の学級で般化できる指導モデルを具体的に通常学級担任に伝える。

## 各教科の内容を補充するための特別の指導

- ・通常の学級における指導内容との連続性

1 児童生徒の興味関心と内容の難易度により、在籍学級で行っている学習内容を1~2に限定し、指導する。

2 児童生徒の発達、習熟段階、興味・関心、生活や学習環境などの実態に合わせ、達成可能な学習内容を精選する。

- ・優先すべき指導項目や指導内容の設定の工夫

3 児童生徒の得意分野を伸ばす内容と困難を改善・克服する内容を指導する。

## 各教科の内容を補充するための特別の指導2

### ・学習項目、学習内容、学習活動の設定

1つの授業時間の中に、いくつかの学習のまとまりを作る。

それぞれの学習のまとまり毎に、(前)前回の復習、(中)新しい課題の学習、(後)その習得の確認、この前中後をセットにする。

復習と確認は確認テスト等で記録に残す。

# フォニックス (奥村ら、Jpn.J.Learn.Disabilit. 22:445、2013)

代表的なsynthetic phonicsでは、

最初にアルファベット(群)と音素の対応関係を提示する。

次に、単語を1字ずつ音素に変換し、音素をつなげて読む方法を指導する。

単語をつづるスペリングでは、単語の音声を音素に分解し、各音素に対応する文字を書くよう指導する。

Reading 読み: アルファベット → 音素 → 単語

Spelling 綴り: アルファベット ← 音素 ← 単語

# 指導法 I . フォニックス

文字カード

単語カード

アルファベット → 音素 → 単語

h



/h/



hat

エイチ

ハ

ハット

d



/d/



dog

ディ

ドウ

ドッグ

手順: カードを見ながら、左から右へ読む。

# アルファベット・音素・単語

| 文字 | 音素      | 単語    |  | 文字 | 音素        | 単語    |
|----|---------|-------|--|----|-----------|-------|
| a  | /æ/ ア   | apple |  | o  | /a,ɔ/ ア、オ | oil   |
| b  | /b/ ブ   | bus   |  | p  | /p/ プ     | pet   |
| c  | /k/ ク   | car   |  | q  | /k/ ク     | queen |
| d  | /d/ ドウ  | dog   |  | r  | /r/ ル     | rat   |
| e  | /e/ エ   | egg   |  | s  | /s/ ス     | sit   |
| f  | /f/ フ   | fish  |  | t  | /t/ トウ    | ten   |
| g  | /g/ グ   | go    |  | u  | /ʌ/ ア     | up    |
| h  | /h/ ハ   | hat   |  | v  | /v/ ヴィ    | vest  |
| i  | /i/ イ   | ink   |  | w  | /w/ ウ     | wind  |
| j  | /dʒ/ ジュ | jam   |  | x  | /ks/ クス   | box   |
| k  | /k/ ク   | king  |  | y  | /j/ イ     | yes   |
| l  | /l/ ル   | leg   |  | z  | /z/ ズ     | zoo   |
| m  | /m/ ム   | man   |  |    |           |       |
| n  | /n/ ヌ   | net   |  |    |           |       |

(カタカナは参考まで)

## 指導法Ⅱ．ライム(奥村ら、Jpn.J.Learn.Disabilit. 22:445、2013)

・rhymeライムとは、**単音節語の母音と語尾子音**を合わせた単位である。例：teamでは、tが語頭子音、eaが母音、mが語尾子音で、eamがライムの綴りである。

・ライムを共有する単語の母音は**同じ読み方**をすることが多く、読みの**手がかり**となる。

・ライムは3～4文字であり、大きなまとまりで音声化でき、**効率的な読み**につながる。例：ライムakeに語頭子音をつけると、take, make, fakeなどの単語ができる。

# ライムと単語(例)

| 母音                | ライム                             | 単語  | ライム                             | 単語  |
|-------------------|---------------------------------|---|---------------------------------|---|
| 長母音<br>a<br>/ei/  | ake<br>ame<br>ase<br>ave<br>ate | make, take, cake, wake, lake<br>name, same, game, came, frame<br>base, case<br>wave, save<br>date, gate, late, hate, plate, skate | ape<br>ade<br>afe<br>ane<br>ale | tape, cape, grape<br>made, wade, grade, trade<br>safu<br>lane, plane<br>male, pale, sale, tale, kale, scale |
| 長母音<br>i<br>/ai/  | ime<br>ine<br>ile<br>ike<br>ize | time, lime, smile<br>mine, nine, sine, wine, line<br>file, tile, mile, smile<br>like, hike, bike, strike<br>size                  | ipe<br>ife<br>ite<br>ide<br>ive | pipe, wipe, snipe<br>life, wife, knife<br>site<br>side, hide, ride, slide, pride<br>dive, five              |
| 長母音<br>o<br>/ou/  | ome<br>one<br>ole<br>oke<br>oze | home, dome<br>tone, bone, cone, phone<br>pole, hole<br>coke, joke, smoke, stroke<br>froze   | ope<br>ote<br>ode<br>ove        | rope, hope, slope, scope<br>note, vote<br>mode, code<br>stove   |
| 長母音<br>oo<br>/u:/ | ood<br>oof<br>ook<br>ool<br>oom | food, mood<br>roof, proof<br>spook<br>cool, pool, school<br>boom, room, zoom  | oon<br>oop<br>oot<br>ooth       | moon, noon, spoon<br>hoop, loop<br>root<br>booth, tooth   |
| ou<br>/au/        | oud<br>out<br>oul<br>ouch       | loud, cloud, proud<br>out, scout, shout, about<br>foul<br>ouch, couch, pouch  | ouse<br>ound<br>ount<br>outh    | house, mouse, blouse<br>bound, mound, sound, ground<br>count, mount, account<br>mouth, south                |

# 認知の弱さへの支援例

(安藤、Jpn.J.Learn.Disabilit. 25:431、2016)

| 認知力       | 弱い力           | 支援例   |
|-----------|---------------|---|
| 視覚認知      | 空間認知力         | 読んでいるところに <b>定規</b> を当てる、重要個所を <b>枠で囲む</b>    |
|           | 形の弁別、形の恒常性    | 字体、 <b>文字の大きさ</b> 、改行に配慮                      |
|           | 視覚記憶          | <b>聴覚記憶</b> も同時に使う                            |
|           | 目と手の協応        | 書く <b>時間</b> の確保、 <b>10段</b> のノートを使う          |
| 聴覚認知      | 音の選択性         | <b>静かな教室</b>                                  |
|           | 聴覚記憶          | <b>視覚支援</b> (要点の板書、絵、実物を見せる)                  |
|           | 聞き誤り、聞き返しが多い  | 指示は <b>一つづつ</b> する                            |
|           | 聞いたことが理解できない  | <b>簡明</b> な指示、一斉指示後に <b>個別にも</b>              |
| ワーキングメモリー | 2つ以上の感覚を同時に使う | 聞く時間は <b>手を止め</b> 、後で書く。意味理解では <b>黙読</b> もあり。 |
| 注意、集中     | 時間は10~15分が限界  | <b>時間</b> を守る、いろいろな <b>活動を組み合わせ</b> る。        |

# DDの子どもの心を守る

DDの子どもへの**最良の支援**：

- ・子どもの読みが気になれば**正確な診断**を求める。
- ・読み障害に**効果がある指導法**を探し、受けさせる。
- ・学校で**ポジティブな経験**が得られるように生活や学習内容・方法の調整をする **得意な分野**で自信！
- ・世間知らずにならないように**社会を体験**させる。
- ・家庭では子どもと共に**本を読み、読み聞かせ**をする。

その子に

「ひとりの**人間として価値ある存在**である」

と常に言い続ける！！！！